

想 「心に残る言葉」

町長 三浦正隆



先月、何回か講演を聞く機会があったが、その中でとても感銘を受けたのが町村会設立90周年記念式典で講演された片山前総務大臣のお話であった。

片山善博前総務大臣は岡山県生まれの方である。

昭和49年、当時の自治省に入省され、その後、鳥取県庁や国土庁への出向を経て、自治省固定資産税課長・府県税課長などの役職を歴任し、平成10年退官された。

平成11年4月、鳥取県知事選挙に出馬し、初当選を果たされ、2期勤められた。鳥取県知事在任中は当時の岩手県増田知事や宮城県浅野知事らと改革派知事の代表格で大変人気の高い知事であった。

昨年9月、菅内閣で総務大臣に任命されたが、野田内閣発足に伴い退任された。現在は慶応大学法学部教授でいらっしゃる。

実は、片山さんは昭和54年7月から1年間、能代税務署長として勤務されている。講演の冒頭でも当時の事を懐かしそうに話されていた。“能代市末広町15-9”が当時の官舎だったようで、能代でお嬢さんも生まれたそうである。税務署長ということで商工会、法人会等の会合によく出たとのこと。

海岸の松林近くの官舎だったので、市の中心部で酒を飲んでの帰り道風が強くて飛ばされそうになりながら帰った話や今の季節はきりたんぽをよく食べた話をされた。

三種町の旧三町のこともよく覚えておられ、当時の町長さん達のお名前をすらすら宙んじられたのは驚きであった。

講演では現在の日本の政治状況が90年前当時の日本の状況と酷似していること、菅内閣での裏話、総務省改革に取り組んだこと、震災対応のこと、地域主権改革や社会保険と税の一体改革等について話された。最後に行政は何をなすべきかと言う点に触れられ、“弱者・声の小さい存在”すなわち弱い立場の人にどう寄り添うかということだと明言された。

総務大臣就任早々、「住民生活に光を注ぐ交付金」1,000億円を作った経緯を語る片山さんの言葉の中に、改めて氏の温かい人柄に触れた思いがした。今、町では少子高齢化、人口減少、産業の不振などいろいろ解決すべき大きな課題を抱えている。一方でまた、自死問題、DV（家庭内暴力）、児童虐待、引きこもりなどの問題に対しても注意を払う必要がある。

行政の根幹の部分について改めて考えた、心に残る講演であった。



懇親会場で、片山前総務大臣、大江羽後町長と

地域おこし協力隊レポート 10

地域おこし協力隊の山口です。

新たな課題として取り組んでおります休耕地を開墾しました。アサツキ、玉ねぎ、ニンニク等を植えましたが、早速それぞれの芽が出ました。土が粘土質で硬く生育に不向きですので生育を見守ってゆきたいと思います。

稲刈りの支援も行いました。主な作業は籾をカントリーに運搬する作業と畦の草刈りです。天候に左右されるので予定通りに作業が進まずに支援内容を何度も変更しながら作業を行いました。

房住神社の例祭にも参加させて頂きました。三種川の水源地は房住山です。その水を利用して生活を営んでいますので感謝を忘れてはならないと感じました。

朝晩の冷え込みが厳しくなり、夜はストーブを焚くようになりました。カメムシも自宅に大量発生しており、蚊取り線香で対応しています。風通しの良い古い家屋ですので越冬に向けての準備を少しずつ進めています。

